

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 10月 29日 開始 10時00分 ~ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム地利目木 _____ (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u>
	氏名 <u>内藤 通</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>青木 徹</u> ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について
外部評価は41項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1570600724
法人名	社会福祉法人 大形福祉会
事業所名	グループホーム 地利目木
所在地 (電話番号)	新発田市佐々木地利目木2610 (電話) 0254-32-6100
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年10月29日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	15.04 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1		4 名	要介護2		5 名	
要介護3		7 名	要介護4		1 名	
要介護5		1 名	要支援2		名	
年齢	平均	82.1 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	金原医院 北越病院 新発田市歯科医師会(野田歯科医院)
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は明るく穏やかな態度で利用者に接し、利用者の持てる力を活かして一緒に楽しく生活したいという雰囲気がある。レクリエーション活動・外出支援を多くして、楽しみや気晴らしができる工夫をしたり、集団外食・個別外食を行っている。地域の祭礼「おのっと」に参加したことをきっかけに、ホーム行事のビアホールに参加していただき、民家の少ない地の利だが企業とも関係が持てた。ボランティア・保育園児等様々な交流をしており、利用者が住みなれた地域で暮らし続けることの大切さに重点を置き、家族・地域・関係機関を巻き込んで、今後ともサービスの質の向上に期待が高まる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	先回の評価結果を受け、全体会議にて話し合い具体的な改善に取り組んでいる。市町村との連携では、施設見学会を実現した。重度化や終末期に向けた取り組みとして医療体制加算や嘱託医の確保等、改善に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、一人ひとり自己評価したものを全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、家族・自治会長等で開催しており、ホームの状況報告・情報交換を行っている。地域との橋渡しや関わりにヒントをもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。また困りごとの相談を双方向に行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や行事参加の際、家族の方と積極的に話し合う機会を設け、暮らしぶりをお伝えする中で家族の思いや意見をくみ取り運営に反映させている。苦情・相談窓口を提示したり、意見箱を設置して外部へ意見を表せるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会長の紹介で地域の祭礼「おのっと」に参加したことから地域との交流が深まってきている。老人会にホーム見学してもらったり、実習の受け入れや、保育園のお遊戯会に招かれている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意見として「毎日楽しく暮らしたい」、職員の意見として「利用者が安心できる生活を地域の中で支えたい」という理念を、2年前に新しく作りかえている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室やホールに理念を掲示し共有している。見守り中心だったが、相手の立場に立って楽しく生活できるように勤務時間を変更したり、レクリエーション活動を多くして理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関やフロアへ掲示し、民生委員の方に広報誌を地域に配布してもらったり、運営推進会議等で地域で暮らすことの大切さやホームの取り組みを理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域との橋渡しや関わりにヒントをもらっている。また困りごとの相談を双方向に行っている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議にて評価の意義を説明し、全職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。評価の意義を理解し、改善に繋げる全体の流れが定着してきている。今回の自己評価も全職員で話し合い取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者・家族を含めたメンバーで開催している。地域行事等、意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市の担当職員や介護課に出向きにホームの報告や情報交換を行い、地域に向け施設見学会を開催した。また、医療体制について相談し、サービス向上につながる意見交換を積極的に行い取り組んでいる。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についてはマニュアルを読み合わせ意見を出し合う等学ぶ機会があり、地域の中でもアンテナが張れるようになってきている。ホーム内でも普段の言葉かけで注意を払い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の暮らしぶりをお手紙や写真でお知らせしたり、預かり金出納帳の写しを送付している。また、面会時や必要時電話連絡を行っている。職員異動については今年発足した家族会や広報誌で異動を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、ケアプランの確認時に話し合う機会を多く持ち、家族からの意見を引き出すようにしている。苦情・相談窓口を提示したり、意見箱を設置して外部へ意見を表せるようにしている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や親睦会だけでなく、日頃から職員は意見を提案している。具体的な日常業務のことはもちろんのこと、医療連携加算が取れるようになったのも職員の意見からである。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が法人内の各職場を経験することも職員を育てることと考えている。管理者は常に運営者と話し合っており、以前に比べれば職員が定着してきている。代わる時は利用者時間に時間をかけて説明し、ゆっくり切り替えられるようにしている。開設時からの職員も数名おり引継ぎをしっかりとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備されており会議等で読み合わせ職員に周知されている。変更までには至らないが、新型インフルエンザ対策等適宜付け加えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己評価を基に個々に目標を設定し、自身の強みや弱みを見出し、スキルアップにつなげている。法人内では、月1回法人研修を行い、資格取得を含め法人外研修への参加を支援している。ホームでは毎月マニュアルを活用した研修・勉強会を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部研修で知り合った事業所と交換研修を行い、訪問した職員は会議で報告し全職員で検討している。また、新発田市近隣の交流会に管理者・職員で参加し、外部とのつながりを通じてサービス向上に活かしている。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は園芸等、趣味を生かすことで仕事を楽しみながら利用者とともに過ごしてストレス軽減となっている。フロアから離れた休憩室でしっかり休憩を順番にとっている。管理者とは何でも言い合える良い関係ができており、定期的に懇談会や交流の機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接の同法人ショートスティから入居されるケースがある。相談があった時点から、家族と一緒に見学に来てもらいお茶のみをしたり、他の利用者と話したり馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であり、一人ひとりの生活暦等を踏まえて、本人の持てる力を発揮してもらいながら調理や家事を一緒に行っている。利用者の話をよく聞き、側にいてほしいときにはマンツーマンで対応している。利用者からは新発田市の歴史を教えてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の協力があってこそ利用者の生活が支えていけると考えており、いろいろな場面で家族と相談し協力を得ている。センター方式記入時に情報をもらったり、行事のときに家族に参加をお願いし利用者との絆を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から、居室担当者が中心となり一人ひとりの思いや意向を聞き、本人本位に検討するよう努めている。収集した情報は記録し、会議や申し送り等にて職員間で共有している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴・暮らし方を介護計画に繋げるための大事な情報として、センター方式を利用し一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握と情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を話し合い、できること・やりたいことが反映され、心身の機能訓練に考慮した本人らしい介護計画の作成に努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン作成後1ヶ月でモニタリングを行い、見直しは、長期で1年に1回、変化時は随時行っている。日々の生活記録で常に計画に対する評価が行われており、少しの変化も見逃さずことなく、現状に即した見直しが本人・家族・関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診介助・買物・理美容同行等利用者や家族の要望に応じて、安心して暮らし続けていくための支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を聞きかかりつけ医を受診している。職員は利用者の健康状態を把握しているため、文章や口頭で主治医に伝えている。認知症の専門医にも相談している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の受け入れを行い、看取りを行う方向となり嘱託医の協力で医療連携加算もこれ体制ができています。本人・家族の意向を聞き、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	現場や会議等でプライバシーについて日頃より注意している。言葉かけに関しては、行き過ぎた表現にならないよう敬う気持ちを持ち、年配者ということを念頭に置き対応している。個人記録は目立たない場所に置き名前が見えないように布を被せている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは食事時間等おおよそ決まっているが利用者のペースを理解し体調に沿ってその日の暮らしを支援している。希望をいえない利用者には表情や行動で判断し希望を確かめるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼食は一ヶ月ごとに献立を決めているが、夕食は午後利用者と一緒に買物に行きそのとき献立を決めている。調理も利用者の力を生かして協力してもらっている。男性の利用者からにもできることをお願いしている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄については排泄パターンや方法等把握してトイレで排泄できるように支援している。失敗が多くなってきた利用者に対しては夜間紙パンツのままにすることなくポータブルトイレに切り替える考慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中からお湯張りしてあるが、入りたい利用者が少ないため職員の勤務時間を変更して、午後と夕方に入るようにしている。拒否する利用者に対しては、時間や職員・場面を変えて誘っている。時間をかけてゆっくり入ってもらうことにより利用者と職員が打ち解けあうことができている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴等から掃除・調理・花の手入れ・猫の世話等役割がおのづとできている。楽しみごとや気晴らしも集団生活の中で個別のかかわりができるように気配りしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材・日用品の買い物、散歩等、一人ひとりの希望に応えられるよう希望に沿って日常的に外出を支援している。利用者・家族の希望で好みの場所や個別外食にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを理解しているが、安全面を考慮するあまり利用者の自由な行動を規制するようなことがあった時に、責任の所在は管理者にあることを明確にしている。転倒等の危険がある利用者に対し、どこに根本的な原因があるのか意識して取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。ユニット間はテラスでつながっていて常時開放して行き来できる造りになっている。受診介助と食材の買出し、入浴介助が重なって職員数が少ないとき、やむを得ない場合施錠するときがある。		鍵をかけない暮らしについて認識し鍵をかけられ自由に外に出られないことにより利用者にもたらす心理的な不安や閉塞感に配慮しユニット間の協力や地域の理解を求め見守り・声かけ・連絡等の連携を求める工夫を期待したい。
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し改善策を実行・評価することで一人ひとりの状態から起こりうる事故を予測し未然に防止することを話し合い、職員の意識向上と環境改善を行っている。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを活用した勉強会や訓練を定期的に行い、急変時・事故発生時に備えているが、夜間の急変の対応等職員の不安があり、応急手当の定期的訓練の必要性を感じている。		不安材料を具体的に話し合い、定期的な訓練・勉強会を繰り返し行うことで、夜間等人員が少ない場面にも適切・確実な支援に繋げることや、隣接のショートステイには常勤の看護師がいるので、協力を仰ぎ学習の機会に繋げて

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもとに昼夜想定避難訓練を行っている。備蓄や防災セットも非常食や飲料水等の準備がない。地域の消防団とは、災害時駆けつけてもらうことの連絡はとれているが訓練への参加がまだない。		災害時利用者が安全に避難できる訓練は必須のことであり備蓄や防災セットの準備と保管場所を全職員に周知することや地域へより密接な働きかけが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の栄養状態、水分摂取については毎月の体重測定や法人内の栄養士の指導や給食担当者会議等で検討し、適切に支援している。受診時にも検査等で指摘されることはない。不足の時は嗜好を考えて代替品をすすめる等支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く開放的である。ウッドデッキのテラスが両ユニットをつなぎ、そこで洗濯物干しや季節の花々の手入れができる。豊コーナーやソファでのんびりでき、利用者は家庭的な雰囲気の中思い思いに過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を間違わないように入りが個別の造りになっており、重度の人がドアを開けてしまわない工夫があった。居室には、馴染みのタンス・衣類ケースなどが家族の協力で持ち込まれ利用者が安心して、心地よく過ごしている。		